

⑭長浦毒ガス貯蔵庫跡

島内で一番大きい貯蔵庫で、今も巨大な貯蔵タンク跡とコンク リートの台座が残っています。ここには約100トン入るタンク が6基置かれていました。戦後処理の際、毒性を取り除くために 火炎放射器で焼き払って、黒くただれた壁面が今でもその凄惨さ を物語っています。戦後、ここに残っていた毒ガスは土佐沖の太 平洋に海洋投棄されました。







15点火試験場跡

16煙道口跡

北部海岸の岩場は毒ガスの点火試験場になっていました。左は戦後、発煙筒などを焼却処理している写真です。北部海岸道路脇に廃棄物焼却場があり、煙突を上に延ばして燃えやすくしていました。右はその焼却場の煙道口です。山の上に煙の出口があります。



⑦北部砲台跡

大久野島が軍事的にクローズアップされたのは、日露戦争前の1902年に芸予要塞が設置され、大久野島に砲台が設置された時からでした。北部砲台には8門の大砲が設置されていました。毒ガス工場時代には写真のような大きな毒ガスタンクが8個置かれていました。置かれていた毒ガスは砒素を原料とするルイサイトでしたが、戦後処理の際にタンクを焼却処分したため、1996年に砒素汚染が発覚し、1999年に土壌を洗浄処理しました。



18北部砲台観測所跡

この観測所は敵艦・敵上陸部隊の位置をとらえ、砲撃に必要な計算(火砲を向ける方向、砲身に与える角度・発射の時期等の計算)を行い、その結果を砲台に伝える役割を担っていました。観測所から砲台への伝達手段は伝声管を使用したり、徒歩で伝えました。毒ガス工場時代にはここに高射砲が置かれ敵機に備えていたそうですが、敵に場所を知らせることになるので発射されなかったそうです。



19中部砲台跡

中部砲台には芸予要塞時代に6門の28㎝榴弾砲が置かれていました。日露戦争の時、6門のうち2門が朝鮮半島に運ばれ、旅順攻撃に使われました。兵士たちの仮眠できる兵舎もありました。この兵舎は毒ガス製造期には毒ガス製品、並びに原料置き場などに使われました。現在も砲座跡と兵舎の建物が残っています。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。

20火薬庫跡

この火薬庫は芸予要塞時代の砲台の弾薬や火薬を保管する火薬庫でした。壁はレンガ造りですが、屋根は火薬が爆発した時、爆風が抜けるように簡単に造られていました。毒ガス工場時代には毒ガスの製品置き場として利用されました。また朝鮮戦争の時、連合軍(米軍)が火薬庫として使用し、「MAG1」の文字はその時に書かれたものです。火薬庫の海側の土手は、海上や対岸から火薬庫が見えないように盛り土をしていました。



②発電場跡

毒ガス工場の電力を賄った発電場です。ディーゼル発電機を重油で動かし発電しました。当初は240V発電機が3台でしたが、1933年に3台、1934年には2台を増設しました。さらに、1941年には忠海から22KVの海底ケーブル2本によって受電し、既設の発電設備と併用して電力を賄いました。敗戦前には、この建物の中で女子動員学徒による風船爆弾の気球部分の満球テストも行われました。

②重油タンク・海水タンク跡

発電場跡の横にある円筒のコンクリート建造物が重油タンクです。ディーゼル発電機を動かす重油が貯蔵されていました。発電場跡の裏側を少し上がった場所に海水タンクが残っています。これは、発電場で使用する海水を貯めていました。地下水があまり豊富でなかった大久野島では、毒ガス工場の冷却水や風呂の湯などの生活用水として海水が使用されていたため、海水タンクは島内数カ所に残っています。



重油タンク跡

23発電場前桟橋

明治時代(芸予要塞時代)に石で作られた固定の桟橋です。古い写真は1929年の毒ガス工場開所祝の時のものです。知事をはじめ軍関係者などが招待され、この桟橋から上陸しました。毒ガス工場時代は秘密厳守のため、忠海町に面したこの桟橋はあまり使用されませんでした。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。



24南部砲台跡

この砲台は、明治の芸予要塞時代に前の 海路を通る敵艦隊を攻撃するために造ら れました。現在残っている南部砲台の台座 跡には、スカ9速加砲4門が設置されてい ました。道路を挟んで左側のところの砲台 には、24㎝加農砲4門が設置されていま した。芸予要塞時代に兵舎として使用され、毒ガス工場時代は毒ガス貯蔵倉庫とし て利用されていました。下の写真は当時、 忠海町の冠崎に置かれていた同じ型の24 cm加農砲です。

25技能者養成所跡

写真は芸予要塞時代の兵舎で、毒ガス工場時代は毒ガス製品倉庫として使われていた建物があった場所のものです。技能者養成の教室、職員室などはこの毒ガス製品倉庫の上に建てられていました。当時、高等小学校の卒業生を技能者養成工として採用し、3年間の専門教育後、各工場で働かせていました。現在は埋め立てられ、建物は地下に埋まっていますが、建物の一部は見ることができます。



幹部用防空壕入口

工員用防空壕跡

26幹部用防空壕跡 工員用防空壕跡

幹部用防空壕(1番桟橋前の広場横)はコンクリートでできていて、上に土を盛り石垣をめぐらし、非常に強固に造られていました。一方、工員用防空壕(「研究室跡」左山の上の斜面)は地面に穴を掘った(1m程の深さで人が1人入るくらいの大きさ:通称たこつぼ)だけのものでした。幹部がいかに優遇されていたかがうかがえます。



②第一桟橋

毒ガス工場で働く作業員がこの桟橋から入ってきました。当時は、この島には陸軍大臣の許可のない者は、絶対に島に上陸することはできませんでした。また、従業員が帰る時には桟橋近くの広場に整列し、持ち物検査を受けなければなりませんでした。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。

